

## まえがき

本書は、2012年10月～2013年3月にかけてアジア経済研究所において実施された機動研究会「2012年ベネズエラの大統領選挙と地方選挙：今後の展望」の最終報告である。本研究会は、2012年10月の大統領選挙と12月の地方選挙を分析することを目的に、ベネズエラ人研究者3人を迎えて実施された。11月27日と12月6日にはカラカスで研究会を開催して集中的に議論を行い、それをもとに12月～1月にかけて各自執筆する予定であった。しかしカラカスでの研究会の2日後、ちょうど編者が帰国の機中にあった12月8日に、チャベス大統領（Hugo Chávez Frías）は3度目の癌が再発したことを発表したのである。発表翌日にはチャベス大統領はキューバにわたり癌摘出手術を受けた。政府がチャベス大統領の病状についてほとんど情報を流さなかったため、回復や公務復帰のめど、あるいは生存しているのか否かさえも不透明ななか、国中が祈りと疑心暗鬼に包まれる3カ月が流れた。

チャベス大統領は2013年2月18日の未明に療養先のキューバからカラカスに帰国したものの、その映像や写真が発表されることはなかった。そしてキューバに出発した12月9日を最後に、国民の前に再び姿を見せることも肉声を聞かせることもないまま、2013年3月5日にカラカスの軍病院で死去した。それを受けてニコラス・マドゥロ副大統領（Nicolás Maduro）が暫定大統領に就任し、4月14日に大統領選挙が実施された。

このように、本研究会ではチャベス大統領の病状（すなわち政治的展望）が不透明な状態での執筆を余儀なくされた。研究会としては、いずれにせよ10月の大統領選挙および12月の地方選挙に関する情報や分析内容については変わりがなく、また今後状況がどのように転じようとも、それらは今後の展望を考察するうえで重要な情報であることには変わりがなくを確認し、予定どおりの執筆内容で成果を発表することに決定した。実際4月14日の大統領選挙をめぐる情勢やその後の展開をみても、本報告書の各章が提示した分析、とりわけ終章で示された今後のシナリオが、有益な視点を示していると編者は考えている。

本書の各章の内容は、基本的に章の冒頭に記載された執筆日までの情勢をも

とに執筆されている。そのため、それぞれの執筆日以降の展開については基本的に反映されていないことをあらかじめ了承されたい。12月のチャベス大統領の癌再発から3月の死去、4月の大統領選挙、その後6月までの情勢や展開については、序章においてまとめて説明することにした。

事態が急速に動いていたため、本報告はまず3月13日に中間報告書としてウェブ公開された。その後直近の情報を加筆したのが、本書である。日本語では情報が少ないベネズエラ情勢について、本書が理解の一助になれば、編者・執筆者一同これほどの喜びはない。

(編者)